みんゆう随想

室堂ビジターセンターに這うように辿り着き、冷たいジュースを一気飲みして、気力が回復するまで休憩することにした。同行した土田さんが、私の体力の減退に気遣い、おにぎり、果物、非常食、お菓子と品を換えて食べさせようと、懸命に差し出してくれるが、悪いなーと思いながらも全く進まない。

御前峰は目前、登山者の往来は止まらない。ここまで来たのだと証拠の写真に拘り、ザックを置いて整備された登山道をひたすら山頂を目指した。幸いにも

渡辺　裕之

福島市・渡辺エンジニアリング
取締役会長

山に魅せられて(27)

天候に恵まれ96座目の万歳がデジカメに納まった。

最悪のコンディションで、根性と体力勝負の下山となった。登ってくる小屋泊まりの親子、各パーティーや女子高生に励まされ、気を失わないよう大地に身を寄せながら、登山口に着いたのは予定より3時間半遅れの夕暮れ時となった。

百名山制覇もあと僅かなのに、寝不足と疲労、熱中症と夏風邪で地獄を味わう結果となり、過信や油断は禁物、山では特に入念な体調管理の重要性を命がけで体験する結果となった。

今回は3座を目標に家を出て残すは光岳。今夜は取り敢えず次の登山口まで移動して、翌朝の調子により決断することにした。

一夜明けて、気力も体調も思いの外回復したので、早速支度を急ぎシャトルタクシーに乗り込んで易老渡登山口へ向かった。かつては栄華を極めた林業の面影を薄らと感じさせる山間の林道を、奥地へ高度を稼ぐと雄大な山容が我々を歓迎している。

南アルプス特有の、吊り橋を渡るといきなり長丁場の急登が始まった。暫くぶりの小屋泊まりなので、時間を気にせず山旅を楽しむことにして、面平でのんびり遅めの朝食をしていると、「山は私たちの人生だ」と言わんばかりの、お似合いのカップルが楽しそうに降ってきた。コースや水場、小屋の様子などを聞いたら、話し好きな二人はたくさんの情報をくれた。お別れに「何方からですか?」と訪ねると、男は九州、女は東京。「夕べ小屋で知り合ったの。危険な箇所があるのでこの人に付いてきたの…」。微笑ましさは遥かに超えて嫉ましかった。

7時間登り詰めてようやく易老岳に到着して昼食休憩。小屋まではあと3時間。三吉平まで下り、石ゴロの登り終点近くの水場で疲れを癒やした。